

# 安保・戦争国会粉碎へ!

2015年8月16日  
No.312

Tel 03-3651-4861  
mail\_cn001@zengakuren.jp  
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

## 安倍「70年談話」徹底弾劾!

### 8・15労働者・市民の集いに580名!

#### ◆動労千葉・田中康宏委員長発言

敗戦から70年、戦争法案が審議されている状況の中で、今日こうやって民主労総の同志たちを迎えて集会を開いていることは特別な意味があると思います。

彼らが銃を向けようとしているのは、アジアの民衆に対してです。つまり、いま韓国でゼネストを闘っている同志たちに銃を向けろと言ってこの国会で戦争法案を審議しているんです。



私たちは今日、固く決意したいと思いません。絶対にアジアの労働者たちに銃なんか向けない。銃を向けるんだったら、それは戦争をしようとしているこの国の政府に対してです。それを私たちは歴史から学んできました。だから今日、こうやって連帯して闘っていることに本当に大きな意味があると思います。日本の新聞が、民主労総が命がけでゼネストに立ち上がっていることを一行たりとも報道しない。すでにそうやって戦争が始まっているんです。だから私たちの力で、韓国・民主労総のこの素晴らしい闘いを、全世界の労働者の先頭に立っているこの闘いを、声を大にして訴えなければなりません。

もう一点。先週メールが入りました。あの3・11大震災・原発事故以降ともに闘っているトルコの同志たちからです。その文面を見て私は涙が出てきました。「私たちは戦争と向き合っています。中東は火の海です」こう書いてありました。安倍政権が乗り出そうとしている戦争は、この火の海で金儲けをしようとしているということなんです。彼らは「一刻の猶予もありません。いまこの連帯を力あるものにした」こう言って11月集会に代表団を送るといって来ました。求められているのは、私たち日本の労働者階級が力を取り戻し、戦争を止める。そのことを固く固く決意しなきゃいけない。私はそう思いました。

さて、私たちが30年間闘い続けた国鉄分割・民営化に伴う解雇撤回闘争で、最高裁は上告棄却の判決を下しました。30年間の闘いの節目で



すみだ産業会館にて8・15集会打ち抜く!

す。最高裁がどういう判決を下そうが私たちは関係ありません。闘いを続けます。本当に長い長い闘いのご支援ありがとうございました。でもこの国の政府を倒すためにもう一つ力をお貸しください。私たちは闘い続ける決意です。

なぜか。第一にこの判決は、採用差別、国鉄分割・民営化は国家的不当労働行為だったと認定しました。にもかかわらず解雇を撤回しない。これは全ての労働者の権利にかかわる問題です。

第二に、国鉄分割・民営化は「国鉄分割・民営化で国鉄労働運動を潰す。そうすれば総評が潰れ社会党が潰れ、大掃除ができて立派な憲法が安置できる。」こう言ってやられたんです。この問題は、今まさに国会で争われているんです。だから私たちは、闘いの旗を降ろすわけにはいきません。

もう一点。国鉄分割・民営化は日本の労働組合を潰すためにやられました。実際に総評は自ら解散し連合ができました。これが目的でした。でも今日の前で起きていることは、総評解散に次ぐ、日本の労働組合を戦争推進勢力にするための労働運動解体攻撃です。それが安倍とUAゼンセンの極秘会談という形で行われています。

●参院採決阻止! 安倍たおせ! ゼネストで戦争とめよう!

## 8・20国会デモ&抗議集会

8月20日(木) 11時半  
正午  
14時半~  
16時~17時

日比谷公園霞門集合  
霞が関一国会デモ  
防衛省に申入れ行動  
国会前抗議集会  
(衆議院第2議員会館前)



そしてもう一点です。国鉄分割・民営化は1500万人もの労働者を非正規職に突き落としました。労働者の未来を奪いました。これと戦争は一つでした。貧困だワーキングプアだ、こんな言葉が蔓延しました。年金も社会保障も医療も教育も全部破壊されたんです。この出発点が国鉄分割・民営化でした。だけどその問題がいま戦争法案の裏に隠れて審議されてるじゃないですか。全てを非正規化して社会丸ごと民営化しよう、こういう攻撃です。だから闘いの旗を降ろすわけにはいきません。

私たちは闘い続ける。そのことは当たり前です。8月23日、私たちの新しい闘争宣言として永田町の、国会のすぐ脇でこの新しい闘いへの決意を提起する総決起集会を開きたいと思います。ぜひ今日ここに集まった多くの皆さんの結集をお願いしたいと思います。この夏、戦争法案を阻止するために8-9月をとにかく全力を尽くして闘い抜くこと、つまり歴史の選択が僕らの拳の一つ、スクラムのひとつ、いまどう足を一歩踏み出すのかにかかっているんです。世の中には曖昧にして、警察や何か私たちの味方であるかのような、そういう闘いの旗を汚す思想が満ち溢れています。だけど僕らは、戦争をするような政府は、労働者の実力で倒すしかないんだという思想で立ち向かいます。

そしてこの秋、私たちが国鉄分割・民営化で失われた日本の労働運動の後退、これを取り戻す。そして歴史の前面に僕らが登場する。そういう過程にしたいと思います。必ず戦争は止めることができる。私はそう確信しています。今日はありがとうございました。

## ◆斎藤全学連委員長発言

私たち全学連は、日本全国の大学から今の戦争法案反対の国会闘争の最先頭に立つとともに、大学の中から戦争協力反対の大学ストライキを実現していく闘いをやっていきたいという決意を表明したいと思います。

まず私たちの戦後70年に対する労働者民衆の側の回答は、この集会の場に何よりも示されていると思います。韓国の民主労総の労働者が全世界の労働者の先頭に立ってゼネラルストライキを切り開いて、そういう闘いと一体で日本でこういう集会が行われていることの中に私たちの回答があると思います。

安倍政権は、戦後70年にあたって、昨日安倍談話を表明しました。本当に許しがたい談話です。まず日露戦争は正しかった、そして、国際秩序に反してやった第二次大戦は間違っていた、で、それを反省して、戦後70年は平和でした。だから最後に、これから先謝罪するもう必要はないし、そして、「積極的平和主義」を掲げて、国際的秩序に反するような侵略戦争はもうやらせない。つまり「朝鮮半島有事」や対中国の形で集団的自衛権が必要だと言っているように、侵略戦争を平和の名を語ってやるんだという宣言です。

本当にあの談話はペテンだらけです。あのインドの民族解放闘争の勇士であるジャワハルラール・ネルーの言葉の前半部分だけを引用して、「日露戦争に対する日本の勝利は当時の多くの植民地の人民を勇気付けた」、こういうことを言いながら、その後半部分「しかしながら実際に起きたことは、帝国主義の中に東アジアに新しい国が誕生しただけであり、その最初の辛酸をなめたのは朝鮮であった」、この部分は意図的に削除するわけです。まさしくこれはペテンであって、日露戦争の結果、

日本は朝鮮を併合し、そしてその利益を守りさらに帝国主義的に拡大するために世界戦争に向かっていったわけです。徹底的に自分たちのあの15年の戦争についても目的そのものは正しかったかのように言い放ちただけにすぎません。

そしてその上で、戦後70年は平和だった、こう言っているわけです。まったく違いますよね。ほんの20年ほど前まで朝鮮には軍事独裁が敷かれていました。それを支援してきたのはアメリカと日本です。朝鮮戦争を支援したのは日本です。沖縄をサンフランシスコ講和条約で切り離し基地を強制し、そしてそこから米軍機が飛び立つことによって朝鮮戦争が行われ、ベトナム戦争が行われ、中東戦争が行われてきた。これが戦後70年のまぎれもない実態だったわけじゃないですか。

みなさん、私たちはこういうペテンに対して、戦争と戦争の間の時期を平和だと言っているわけじゃない。解雇された労働者が職場に戻ることができる、非正規職の、こんなふざけた働き方が存在しない社会、労働者が使い捨てにされない社会、そういったものを私たちは平和と呼びたいわけだし、今の安倍政権の結局自分らの利益のために平和という言葉をもてあそぶ。こんなことのために私たちは戦争反対の思いをずっとずっと維持し、引き継いできたわけじゃないわけです。だから私たちは今、戦争反対の思いを引き継ぐところから、本当に一つの形にして、戦争を本当に止める闘いをやらなくちゃいけないと思っています。

私たち全学連は、冒頭述べたとおり、今大学で進む軍事研究、文系学部の廃止、今度日本大学にできる危機管理学部、経済的徴兵制、自治寮を廃止し、活動家を大学から追い出していく、こういったことに対して具体的に闘わなくちゃいけないと思っています。そのための最大の方針が大学からのストライキです。

そしてだからこそ、今戦争反対の思いを集めて、一つのカラオケ大会のようにしてしまっているSEALDs指導部や日本共産党のあり方に対して、これを乗り越える闘いをしなくちゃいけないと思っています。SEALDs指導部がまさしくホームページで発表している内容は、今回安倍首相が戦後70年談話で出した世界観とまったく一緒です。戦後70年は平和でした。こういう言い方をしているわけです。完全に同じ論理で、結局自衛戦争のために、SEALDsはホームページで「戦後70年平和を築いてきた日本は国際社会に対してこれから先をリードしていく義務があります。」と書いています。完全に今の中国や北朝鮮敵視の安倍政権の政策に乗っかって、自衛戦争容認のもとに結局のところ侵略戦争をやっていく、労働者民衆を銃を向けさせあう関係に置いて団結を破壊し、また戦争を始める。こういう論理を肯定するものでしかありません。

私たちは絶対にこれを乗り越えて、9月全学連大会の大結集をつくり出します。そのために8月20日、戦争反対の国会包囲闘争に立ちます。ここに本当に多くの学生を集めて、本当に多くの人たちと思いを、怒りを形にして、ストライキという形で大学から戦争反対の行動を切り開いていきたいと思っています。韓国・民主労総の労働者のゼネラルストライキに連帯するような闘いを全学連は先頭に立って切り開いていきたいと考えています。ぜひみなさん、ともに闘い抜いていきましょう。

最後に、「街」弾圧の粉碎、おめでとうございます。全学連も14日の弾圧粉碎のデモに参加させてもらったわけですが、本当に弾圧に対して団結の拡大で闘う、このことが本当にどれほど偉大な可能性を持っているのか、どれほど強固に見える国家権力であっても、実際にはどれほどもろいのかということを示した、本当に偉大な闘いだと思っています。またともにデモできること、うれしく思います。ともにがんばっていきましょう。



## 【当面する行動方針】

### ●9・2~3 全学連第76回定期全国大会

9月2日(水)~3日(木) 2日の午前9時半に開会 ※3日の議事終了後に国会へデモ  
浜町区民館にて(東京都中央区日本橋浜町3-37-1)  
参加費1000円(2日間)



### ●武田雄飛丸君「暴行」でっち上げ裁判控訴審・第1回

9月10日(木) 13時半~ 東京高裁にて ※傍聴券配布のため、13時までに裁判所入口脇に集合してください。